

コールドチェーン

CC各局面で導入拡大

日本熱源システムのCO₂冷凍機

評価定着、リピート採用も多く



岩尾 良雄部長



原田 克彦社長

同社のCO₂冷凍機は、地球温暖化係数1のCO₂を冷媒として使用する環境性と省エネ性を

はC1(38kW)、C2(76kW)、C3(115kW)で展開。このうちF3は新製品となるもので、今回の補助案件で8月に初導入物件が控えている。F3はF2に比べ1.5倍の冷却能力を有しており、その分台数を減らせるため、インシヤルコストの低減が可能になった。一方、F1、F2は高圧ガス保安法に基づく製造届出が不要のため、スピーディに導入できるメリットがある。また、食品製造分野ではCO₂プラインチラー、凍結(フリーザー)対応モデル「タイプF」や、高橋工業のフリーザー用のOEM製品として「Z(シケマ)」シリーズの他、冷水チラーも揃えている。このようにラインアップが充実する中で提案の幅が広がっていること、導入拡大の一因とみられる。

同社の勢いを象徴するのが今年8月末にCO₂冷凍機を実に24台導入する食品卸大手・国分グループの関西総合センター

の案件。CO₂冷凍機を採用したセンターとして、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

CO₂冷凍機「スーパージェット」の導入も決定した。

併せ持つ。実際、冷凍冷蔵倉庫ではR-22冷凍機を比年間で30%以上の省エネを実現した事例もある。同社がCO₂冷凍機の展開を始めて4年が経つが、既に全国で20件以上の導入実績を有しており、この間、一度導入した客先のリピート採用も増えている。これは「導入先で高い省エネ性や、トラブルなく運転できることが確かめられているため」(同社営業部長)と担当の岩尾良雄部長(左)であり、ユーザーの

高評価が定着してきていることが窺える。また、来年より国内生産が全廃となるR-22冷凍機を使用しているユーザーから、ホームページを通じて問い合わせも増加しているところだ。同社のCO₂冷凍機のラインアップとしては、冷凍冷蔵倉庫で導入が進んできた冷凍温度マイナス25度の「タイプF」と同0度の「タイプC」がある。前者はF1(34kW)、F2(68kW)、F3(102kW)、後者はC1(38kW)、C2(76kW)、C3(115kW)で展開。このうちF3は新製品となるもので、今回の補助案件で8月に初導入物件が控えている。F3はF2に比べ1.5倍の冷却能力を有しており、その分台数を減らせるため、インシヤルコストの低減が可能になった。一方、F1、F2は高圧ガス保安法に基づく製造届出が不要のため、スピーディに導入できるメリットがある。また、食品製造分野ではCO₂プラインチラー、凍結(フリーザー)対応モデル「タイプF」や、高橋工業のフリーザー用のOEM製品として「Z(シケマ)」シリーズの他、冷水チラーも揃えている。このようにラインアップが充実する中で提案の幅が広がっていること、導入拡大の一因とみられる。

冷媒をブレンドしている」とし、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

冷媒を採用したセンターとして、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

地域的に見てもCO₂冷凍機の採用は全国に広がっている。最近では北海道での導入が増加傾向にあり、今年導入予定の案件や来年導入に向けた検討も進んでいる。そうした中、同社は今年、札幌にサービスセンターも開設し、対応力の強化も図っている。なお、同社は11月7〜8日まで、アクセスサポート(札幌市)で開催される「ビジネスイノベーション2019」第33回北海道技術・ビジネス交流会」に出展し、CO₂冷凍機を紹介する。

日本熱源システム(社長)原田克彦氏、本社(東京都新宿区)が展開するCO₂単一冷媒冷凍機「スーパーグリーン」の導入が、コールドチェーン(CC)の各局面で拡大している。環境省の今年度の省エネ型自然冷媒機器を対象とした補助事業では、申請した全案件が採択された。従来は中小企業の冷凍冷蔵倉庫での導入がメインだったが、今回の結果では大手食品メーカーや乳業メーカーの冷凍冷蔵倉庫や食品工場のプロセス冷却用途で採用が増大した他、製氷工場でもCO₂プラインチラーの導入も増加。現在、マーカーの製造装置でも引き合いが増えている。同社は今後、冷凍冷蔵倉庫分野、食品製造分野を二本柱としてCO₂冷凍機の拡販に努めると同時に、更に使い勝手を向上するためユニットの大容量化にも取り組んでいく構えだ。

冷媒をブレンドしている」とし、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

冷媒を採用したセンターとして、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

冷媒を採用したセンターとして、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

冷媒を採用したセンターとして、引き合いに繋がっているところだ。ただ、会員企業には自然冷媒冷凍機の導入に踏み込めない零細企業も多く、R-22の冷凍機を使い続けているところも多い。一方、倉庫業界と比べ自然冷媒化が遅れているのが食品製造分野だ。この分野でも同社のCO₂冷凍機の導入は伸び続けており、リピート採用も増加している。これまでR-22用ポンプも入手が難しくなる中で、大手企業では自社で再生R-22をストックする動きもあり、再生R-22が市場に

地球温暖化防止に向けた確実な一歩を CO₂冷媒冷却ユニット

CO₂ SUPER GREEN
スーパーグリーン

スーパージェット 6つの特徴

- 環境性と安全性** CO₂は地球温暖化係数1、オゾン破壊係数0で地球環境に悪影響が無く、毒性も無く安全。フロン排出抑制法の対象外で取り扱いが容易。
- 省エネルギー性** R404Aに比べて年間20%以上の省エネを実現。夏でも高い省エネを実証。
- 災害対応性 BCP** 空冷式を採用し冷却水が不要なため、断水に左右されず、災害時のBCP(事業継続計画)をバックアップ。
- 標準シリーズは4機種** 庫内温度-25℃のF級は、F2型68kWとF1型34kWの2機種、庫内温度0℃のC級は、C2型76kWとC1型38kWの2機種をラインナップ。
- 幅広い冷却温度帯** -45℃～+10℃の幅広い温度帯の冷却が可能。Fタイプは冷凍と冷蔵の同時冷却可能なタイプもあり。
- 設置場所も不要** 標準シリーズはいずれも法定冷凍トン20トン未満で設置場所不要。

CO₂冷却ユニットの 広がる用途

- ① 冷凍冷蔵倉庫・物流センター
- ② 食品工場の凍結・冷却装置
- ③ マーガリンなどの食品プロセス冷却
- ④ 製氷用プラインチラー
- ⑤ 氷蓄熱用プラインチラー
- ⑥ 冷蔵・冷凍ショーケース

JESCO 日本熱源システム株式会社 本社
〒162-0845 東京都新宿区山谷本村町2-10
www.nihon-netsugen-systems.com TEL: 03-5579-8830 FAX: 03-5579-8831 大阪支店・工場 / 滋賀工場 / 東日本サービスセンター / 福岡サービスセンター